

強化に向けた視点

同窓会組織／既参加青年ネットワークの強化

同窓会組織／既参加青年ネットワークの見える化

現状

【日本国内】

- 約12,000人の会員を有し、47都道府県に支部を持つ日本青年国際交流機構（IYEO）を組織
- IYEOは大規模災害時の支援、途上国教育支援、国際交流活動を実施

【海外】

- 「東南アジア青年の船」、「世界青年の船」参加国は各国で同窓会を設立し、それぞれ国際的組織を組織。年に一度の国際大会を実施。
- FacebookやLinkedIn等を活用し、アクセス可能なネットワークを構築している例もあるが、全事業を通じたネットワークは整備されていない。

- 参加青年の多くがIYEOに加盟しているが、参加青年間の活動を網羅的に把握、発信はできていない。
- 多くの参加青年が事業参加後に各界で活躍しているが、本事業での経験を活かしたその後の活躍についての発信が十分になされていない。

取組の方向性

- 既参加青年の交流機会の増加
（例）既参加青年の継続的な交流等の実施
- 既参加青年の活躍の場の増加
（例）オンライン及び実践の現場等のプログラムへのOB/OGの協力強化・参加機会の拡大
- 参加事業間の横のつながりを構築
（例）オンラインによる内閣府事業参加者合同研修、事後報告会等の実施
- 青年国際交流事業のグローバルなネットワークのデータベース構築を検討
（例）参加青年がアクセス可能なデータベース（氏名、職業等）の構築を検討
- 既参加青年の活動の見える化
（例）OB/OGの社会貢献活動状況のデータベースを整備。データベースを見える化し、対外的に発信。
- 既参加青年の活躍の発信
（例）既参加青年の現在の活躍を内閣府SNS等で戦略的に発信